

ラグビーワールドカップ2019に向け妨害電波発射源の探査訓練を実施

総務省東海総合通信局(局長 吉武 久(よしたけ ひさし))は、ラグビーワールドカップ2019競技大会に備え、競技場及びその周辺で大会用無線システム等に混信妨害の発生した場合を想定して、妨害電波発射源の探査訓練を令和元年9月6日(金)9時15分～11時15分に名城公園北園(名古屋市北区名城一丁目)で実施しました。

今回の探査訓練は、主に試合会場やその周辺の限られた範囲で妨害電波が発射されたものと想定し、探査エリアは徒歩で探査可能な区域としました。

具体的には妨害電波発射役の職員1名が携帯型トランシーバを所持して公園内の樹木等の陰に潜伏し電波を発射、探査を行う職員は3～4名からなる3チームに分かれ、時々立ち止っては右腕に所持した指向性アンテナを左右にゆっくり振り、左腕の測定器画面のレベルが最も高い方向を目指して歩行、この動作を繰り返して電波発射源に近づきました。

訓練にはラグビーワールドカップ2019の開催競技場(※)及び周辺の電波監視を担当する職員(コーディネータ等)26名中13名が参加。妨害用の周波数等を変えて3回実施しましたが、いずれの回もすべてのチームが20～30分で発射源の携帯型トランシーバを特定することができました。

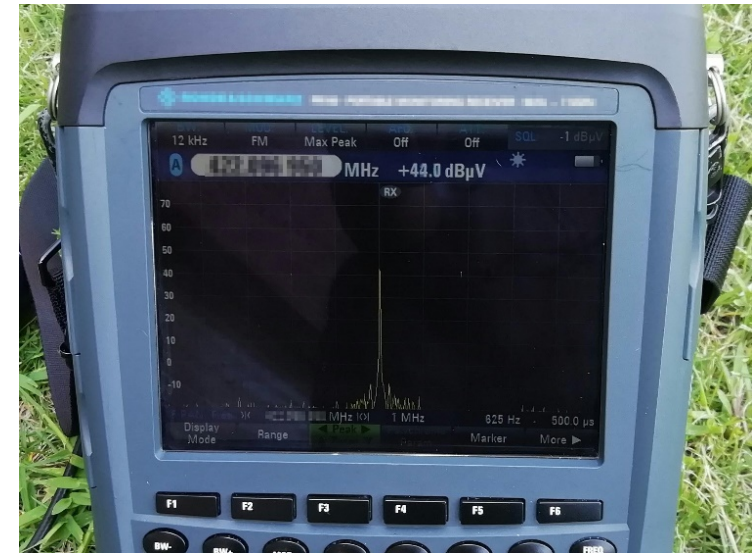
総務省東海総合通信局では、今後も競技大会本番に備え、着実に準備を進めてまいります。

※ 豊田スタジアム(愛知県豊田市)及び小笠山総合運動公園エコパスタジアム(静岡県袋井市)の2会場を担当

お問い合わせ先: 電波監理部監視課 052-971-9470



探査の様子



妨害電波(模擬)を測定器で捕捉